

---

# 白の国

やってみよう会

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白の国

### 【Nコード】

N7610N

### 【作者名】

やってみよう会

### 【あらすじ】

地球温暖化で異常気象になり、ついに地球は氷河期を迎える。

人類は地下に住み始め、いつしか地上は『伝説』となった。

そんな中生きる少年（高校生くらい）の話と、地下の中で生きる少年（高校生くらい）が地上を夢見て地上を目指す話である。

注：原作のキャラとかは出ないよ！！

## ブログ まあ見てって！（前書き）

初めての真剣に書きます。間違いがあれば、教えてくくださればありがたいです。

駄文ですが、よろしく願います。

## プロローグ まあ見てって！

### 少し未来の話

地球温暖化のせいで、北極が消え地球は氷河期を迎える。

台風を造り、全てを凍らし尽くす。

また、異常気象により人類は地下に逃げるように住み始める。

地下に『ホール』という、天井に空を映しだした一つの大きな部屋を造る。

『ホール』にはいくつもの部屋がある。

その部屋を自分の家にするのだ。

また、『ホール』と『ホール』をつなぐ通路は幅が大きく、店も並んでいる。

歩きながら買い物できるのだ。

そこを造った人類は、そこにずっと住み続けるようになる。

そして、人類はいつしか地上を『伝説』にしてしまったのだ。

その『伝説』には、

『辺り一面に緑が生い茂り、

青い空はどこまでも高く、暖かい風が体を包み込み、

白い雲が浮いていて、時に恵みの雨が降る。』

そう記されている。

そんな中、地上を歩く人間達がいた。

まだ少年（高校生くらい）だ。

ソリを引きずり、暖か装備で歩いている。

彼らは、ある任務で、

太陽の様子や位置、

台風の大きさや形、軌道に位置、

地上の温度や様子、

現在地などを、『極秘情報収集ホール』に報告しなければいけないのだった。

その中の一人、神谷<sup>かみや</sup> 未来<sup>みらい</sup>（名前からして日本人）の軌跡のお話ししよう。

彼はこの、真っ白な世界で、

孤独な世界で、

文明が死んだ世界で、どう生きるのか。

何を伝え、何を残すのか。

これから話すのは、そういうものである。

そのついでに、地上を目指す地下に住む、アスラックライン

（髪が黒色で目は赤色の日系民族）の話もしよう。

ブログ まあ見てって！（後書き）

次、何時だせるだろうか・・・。  
出せなかったらごめんなさい・・・。

第一章 現在 2976年 第一話 地上（前書き）

こんにちは！やってみよう会デユエ！スウ！！！！

今日も今日とて駄文を書くぜ！！！！

・・・半分壊れた作者の話ですがよろしく見てください・・・。

第一章 現在 2976年 第一話 地上

《SIDE 未来》

報告、

二九七六年七月十九日、

現在地：北太平洋ノ日本ノ近ク、

太陽：様子：今日ハイツモ道理、雲ニ隠レテイル。

位置：東上空、午後四時半。

台風：大きさ：イツモヨリ小サイ、少シノ間ハ安全ソウ。

形：イツモ道理。

軌道：十二時間後ニアメリカ合衆国上空ニ移動スル。

位置：ブラジル近ク。

地上：温度：氷点下二十三度。

様子：相変ワラズ地面一面真ツ白ダ。

以上

よし！報告ができた！！これで六時間の休眠がとれる。

あとはサニー・クラニス君に頼もう。

サニー君がこっち側・・・地上に来たのは去年のことだ。

何故か俺についてこようとする。

多分、サニー君が訓練している時に落とし穴（ガラス張りの天井）に落ちてそれを助けたからだと思う。

その時の話はまたほかの話でしょう。

今、地上にいる『極秘任務隊』はもの凄く減って、残り（未来も含めて）三人になってしまった。

昔は結構いたのだが、この環境にやられて皆死んだんだ・・・。

その話もまた今度にしよう。

つとと、報告が終わってるんだから早く『補給口』から食料をとらないと！

補給口とは、地下からの補給（食料など）が唯一出てくる『出口』なのだ。

俺たちはここから地下には行けない。

この地上に居続けなくてはいけない。

そのためにココにいる。

ガーン

『聞こえますか？未来先輩！！』

おおう・・・。

未「聞こえているよサニー君。君の番だが、雪の中はいろんなモノがあるから気を付けて。」

サ「はい！！！！未来先輩が言うのなら、どんなものが来てもへっちゃらです！！！！」

もう一度、おおう・・・。

未「じゃっ後は頼んだ」

サ「え???も、もう少しはん「ブチッ」

・・・よし！これでいいのだ。

後はサニー君。君に頼んだ。

俺は補給口から食料と、テントを取り出す。

テントを張って寝袋に入り、寝る。

おやすみ~~~~~zzzz

## 《SIDE OUT》

### 《SIDE サニー「クラニズ」》

ああ・・・。

先輩に切られた・・・。

やつちゃった・・・。

やられちゃったよ！オイ・・・。

ま、いつか！

先輩が『後は頼んだ。』て言われたし！

頼まれたんだよ！！

やつほい！

・・・はっ！！

早く任務に就かなきゃ！！！！

ザッザッザッ

～サニー移動中～

しかし、見渡す限り真っ白・・・。

あつ、これって『ビル』って言う奴だ！前、先輩が言ってた！

『ガラス』っていうやつが危ないらしいんだよね。

上から落ちてくることもあるらしいからだって。

気を付けないと・・・。ごくり・・・。

僕はゆっくり中に入る

「わあああああああああああ！！！」

人が！！！！人が倒れてる！！！！

・・・これは前に先輩が言っていた凍りついた『死体』らしい・・・。

僕は無言で合掌する。（これをしろと先輩が言っていたからやっている。）

グルルルル

・・・今は僕のお腹の音じゃないぞ！

・・・ここにいるのは僕だけだったはず・・・。  
な・・・なんか嫌な予感が・・・。

ウワン！！！！

すると何かが飛んできた！

「わあああ！！！」

すんでで避けて見てみると・・・

あら不思議、オオカミがいました・・・おお・・・。

！また来る！

それを避けつつ、地上連絡用トランスミッター 未来 を手に持つ。

サ「オオカミが出・・・って繋がらない！そうでした！」

ウワウ！

そおい！

今度は地上連絡用トランシーバー ジョン を手に持つ。

「解説しよう（誰！？）」

ジョンとは未来の大親友で、サニー君の敵（おい！！）」

本名をジョン＝バーサーカーと言う（危な！！）」

戦いのスペシャリスト・・・かもしれない人（んにやる！！）」

サニー君の先輩でもある（戦略的撤退！！）」

以上

あ・・・危なかった・・・。

何でボタン押しても繋がなかったんだ？故障か？

・・・あつ、繋がった。

サ「オオカミに襲われた時の対処法を手短に言え」

ジ「いきなり失礼すぎるだろ！！それでも先輩だかな！！」

オオカミに襲われた時は地下連絡用トランシーバー ちかれんらくよう 補給用

で銃を要求する なんだ！後は近くの補給口から銃が出て来るから

！それで何とかしろ！じゃっ」

・・・切られた・・・ま、いつか。

どうすればいいか分かったし。

ガーッ

「なんでもいいから銃たのみます！！」

「はい、分かりました。M4カービンを用意しましたので、近くの補給口にて少しお待ちして下さい」

補給口からM4が出て来る。

そいつを手に取り、こっちに来たオオカミに向けて・・・

撃つ！！！！！！

オオカミを殲滅！！完了！！

・・・報告内容どうしよう・・・。

まっ、いっか！

オオカミたちを埋める。

だんだん雪のように冷たくなってゆく体を抱き抱え、穴に埋める。

気持ち悪くなる。吐きそうだ。

作業を終え、また歩く。

荷物の乗ったソリを引き、前を向いて・・・。

あっ、こけた・・・。

第一章 現在 2976年 第一話 地上（後書き）

・・・なんだかすいません。

こんなことですいません。

作者は高校生にもなっていないのです。

心から、すいませんっした~~~~~!!!!!!

誤字等や感想をまっています!!

ほんと、調子に乗ってごめんなさい~~~~~!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7610n/>

---

白の国

2010年10月11日20時36分発行